

言い方をじっくり考えて

「書き言葉」に

ふさわしい表現を

言葉には、人が話をする時に使う「話し言葉」と、文章に表す時に使う「書き言葉」があります。2つの言葉をきちんと使い分けて、美しい文章をマスターしましょう。



◆書き言葉と話し言葉

文章を書く時に、気づきにくいミスの一つに、文章の中で話し言葉を使ってしまうことがあります。例えば、「我が家のペットはメッチャかわいー」という文は日本語として間違っていないではありません。しかし、「メッチャ」は話し言葉ではともかく、文章に書く時はふさわしくありません。このような話し言葉を文章の中で使うことが、気づきにくいためか、近年多くなっています。

◆話すように書いてはいけない
ところが、昔と違って今はケータイやスマホで、思いついたことをすぐ

にメールに打つことに慣れています。そのため、文章を書く時も、つい思いついたことをそのまま書いてしまっ、その結果、話し言葉の表現が混じってしまうのです。例えば、「サッカーの練習をマジにしているんで、かなり上手になったと思う。なので、次の試合がちよっぴり楽しみだ。」という表現で考えてみましょう。

では「〜ている」を「〜てる」と言ったりします。また「〜ので」が「〜んで」になることがあります。これらも書き言葉では注意が必要です。さらに、接続詞の「なので」は、話し言葉では使ってもかまいませんが、書き言葉ではまだ認められていないと覚えてください。「だから」などとすべきでしょう。同様に「ちよっぴり」も書き言葉にはふさわしくありません。「少し」とすべきです。

監修 佐竹 秀雄

当協会 現代語研究室
室長



国立国語研究所室長、武庫川女子大学言語文化研究所長を歴任。専門は現代語の表記論、文章論、言語行動論。『文章を書く技術』（ペレ出版）、『デイリーコンサイス国語辞典』（三省堂）ほか著書、編著書多数。